

JOMA 通信



Japan Overseas Missions Association 海外宣教連絡協力会 公報 No. 72号

今こそ

2013年度 JOMA 書記担当

日本ホーリネス教団 宣教局国外宣教主事・広島キリスト教会牧師

松沢実喜男

昨年末の JOMA 役員会でのことです。OMF で 15 年続けられてきたアジアの宣教大会（今号 2 頁に報告あり）が終わることになった、との報告を受けました。しかし、これは、今までアジア諸国が力を合わせなければ大会を開けなかったという段階から脱却し、これからは各国で開催できるところまでになった、と判断されたゆえのことでした。全般的に、アジア諸国の宣教の働きが進んだことの、いわば一つの喜ばしい成長のあかしでしょう。フィリピンでも宣教師の数が増え、中国でもクリスチヤンの数が増えていると聞きます。日本の現状と照らし合わせる時に、なにか置いてきぼりになっているような思いを禁じ得ません。

近年、JOMA 加盟団体では、多くの宣教師が、定年等により、使命を終えて引退する時期を迎えています。つまり、これは、日本から派遣される宣教師の数が減って来ているということです。この現状だけで全てを判断することはできませんが、これがもし、宣教師を送り出す教会（教団・団体）、つまり我が国の宣教派遣母体の衰退、あるいは私たちの宣教への関心の薄れとリンクしているかもしれない、と考えると、この状況にある程度の危機感を覚えるべきなのではないかと思えます。

もし、上記の推測が正しければ、これは日本の宣教、教会の危機を表しており、このままいくと、日本の教会は、深刻な事態に陥ってしまいます。確かに、日本には、牧師不足、経済的な問題、宣教スタイルの変化、などなど、対応すべき問題が山積みです。それらの問題に、宣教師を送り出すパワーを奪われているとも言えるかもしれません。ですが、このような困難と思える時代にあってもなお、例えば次の 15 年間で、それらを乗り越え、「日本でもこれだけ宣



教が進みました」と言えるように、期待をもって宣教の業に励みたいと願います。今からでも、遅くはないのではないのでしょうか。

そのような意味で、今こそ、過去の宣教への正しい評価（反省）とともに、新しい一歩を踏み出すことが求められているのではないのでしょうか。奇抜なアイデアで勝負、というよりは、祈りつつ、今一度聖書に立ち返り、しかし同時に、時代に合わせた宣教をするということです。この度、JOMA でも、具体的なアクションの一つとして、お茶の水クリスチャンセンターのご協力を頂き、「カイロス」という学びのコースを開催することになりました。来る春の JOMA セミナーにおいて、詳しくご紹介する予定です（詳細は今号 6 頁及び JOMA の HP 参照）。チャレンジの一つとして、是非ご一考ください。

「今」と言われる時（機会、チャンス、猶予）を生かして用いるお互いでありましょう（コロサイ 4：5 口語訳）。私たち一人一人に与えられる、主からのチャレンジに忠実にお応えすることによって、国外宣教、またそれを支える国内宣教の危機を、成長のチャンスとしていこうではありませんか。

AFMC

(アジア・フロンティア・ミッション・カンファレンス) の報告

OMF インターナショナル日本委員会 主事 西村信恵

2013年10月31日—11月3日、フィリピンのタガイタイで、OMF主催の第7回アジア・フロンティア・ミッション・カンファレンスが行われました。この会議は宣教について興味のある人（学生、職業人、牧師、教会リーダーや宣教役員等）を対象に開かれているものです。宣教について、宣教の機会について、どのように宣教師を送り出すか、どんな準備をして行くか、祈りのパートナーとなるにはどうしたらいいか、どの様な方法で神の宣教に関わっていくか、等を学びます。



今大会は「情熱を持って神の目的に生きる」というテーマで語られました。全体集会では、初めからスモールグループごとに座り、講演が終わると、グループごとに分かち合いのときを持つ、というやり方で、自分が受けた恵みやチャレンジ等を、その都度分かち合い、祈りあえたことは大きな恵みでした。

分科会は、「祈りの旅」「自分自身の宣教の旅」「イスラム教とは?」「仏教とは?」「自分の周りにいる外国人」「heart for Asia」「効果的な派遣教会となるには?」等があり、具体的に自分が神の宣教にどう関わっていけるか、ということも語られました。実際にアジアの地で仕えておられる宣教師によって、

その地の宣教について聞くことのできるブースも設けられました。最後の夜には、各国の民族衣装を着た参加者による文化紹介と、祈りの課題の発表があり、それぞれの国について祈る時が持たれました。

第7回目となったこの大会も、今回で最後となりました。多くのアジアの国々で独自の宣教大会を開くようになったためです。日本国内でも、アジア宣教について語り、宣教師として出て行くだけでなく、様々な形で神の宣教に関わることができることを語り、チャレンジしていく場の必要性を感じました。

日本からは大学生、社会人、神学生、牧師夫人といった様々な立場の方が14名参加し、それぞれが神様からチャレンジを受けて帰りました。「神様の

恵みの可能性を侮らず、積極的に神様の宣教に参加していきたい。」「アジアの霊的状态についてよく分かった。神様の視点でアジアの国の為、祈っていきたい。」「自分の周りにいる留学生達に届きたい。」「母教会に帰り、中高生達に世界宣教について語り、共に学ぶ時を始めたい。」——参加された方々の証しはOMFホームページ <http://www.hfj.com/omf/> の「あなたも参加できる宣教」で見ることができます。



アジアろうあクリスチャン宣教大会



アジアろうあクリスチャン宣教大会という大会が、3年ごとに行われています。これは、アジア諸国のろうあ者のクリスチャンたちが、主の交わりを通してキリストの福音宣教を目指す大会です。200名前後の人々が、アジア各国から集まります。この大会は以下のようにして始まりました。1983年アメリカ・カリフォルニアで開催されたC D F (クリスチャン・デフ・フェローシップ) 大会をきっかけにして、アジアでも、ろうあクリスチャン大会を実現したいという願いが起こされました。この願いは、アメリカ、韓国、フィリピンなどのアジア各国の賛同を得、1985年8月に、日本・東洋ローア・キリスト伝道教会において、台湾、フィリピン、韓国及び日本のろうあ者牧師たちが集まり、「アジア・デフ・クリスチャン・フェローシップ」(A D C F) という名称の総会(委員会)が設置されました。そして、大会実現に向けてスタートしました。

第1回大会は、1986年8月に、静岡県の天城山荘で開催されました。その後は、2～3年ごとに、韓国、フィリピン、シンガポール、台湾、香港、インドネシア、マレーシア、中国で、開催されました。2011年10月の第12回大会はフィリピンで開催され、開会礼拝、各国教会宣教報告、大会講義、交わり、開催地での観光などのプログラムが、神の豊かな恵みの中で行われました。

大会は、アジア各国のろうあ教会が開催地に立候補し、A D C F 総会で決定されて、開催されます。各国の言葉や手話は違いますが、身振り、顔の表情によって不思議に通じることができます。さらに不思議なことに「イエス様」という手話は同じです。神様が、以前から「イエス様」という手話を、ろうあ者のために

ひとつにしてくださったのではないかと、不思議な思いもしました。主は、この大会を通して、アジア各国にいるろうあ者たちに福音を広め、聖霊によって、神のみことばの証しをしてくださっています。

今年、2014年は台湾で大会が開催されます。大会参加は、各国ろうあクリスチャン超教派団体、及び、各個教会が対象です。どうぞ、アジアにいるろうあ者に福音が広められるように、お祈りの中に覚えて頂ければ幸いです。(第12回アジアろうあクリスチャン宣教大会、2011年10月18～21日、開催地：フィリピン)



Logo ADCF

This logo signifies the following convictions:

1. The Bible is infallible Word of God. (II Timothy 3:16)
2. Christ is the center of our mission. (Matthew 5:14-16)
3. Our mission is to reach Deaf Asian for Christ. (Matthew 28:19-20)
4. We are called to evangelize the world. (Matthew 24:14)

ADCF シンボルマーク

このロゴは下記の信念を象徴しております。

1. 聖書は全き神の御言葉である。(第二テモテ 3:16)
2. キリストは私たちの使命、ミッションの中心である。(マタイ 5:14-16)
3. 私たちの使命は聾者をキリストに導くことである。(マタイ 28:19-20)
4. 私達は世界宣教に召されている。(マタイ 24:14)

香港・深圳における日本語教会の働き

インマヌエル綜合伝道団 香港派遣宣教師 鹿島義喜

「どうか今、主があの日約束されたこの山地を私に与えてください。」（ヨシュア記 14：12）

1999年、日本の神学校での訓練の後、香港での日本語教会にて10年間の奉仕が許されました。2009年5月末をもって、任期を終えるにあたり、6月以降、神学的教育・伝道者としての訓練をして頂いたIGM（インマヌエル綜合伝道団）の教職として、伝道者生涯を全うするように導かれました。夫婦として不思議な経験でしたが「見よ。わたしは、だれも閉じることのできない門を、あなたの前に開いておいた。」（黙示録3章8節）という同じ御言葉が、二人に与えられました。

2009年6月3日、新たな働きに就いて、初めての祈祷会を持ちました。私たち牧師夫婦を含め、7名で主の前に、これからの導きを祈りました。6月7日、第1回目の礼拝が11名で捧げられました。そこには、3名の求道者が加えられていました。礼拝は、香港のクリスチャン団体の集会場を借りるように導かれました。その場所は、日本人が多く住みだしていた九龍半島で、日本語での礼拝を捧げる所は、まだありませんでした。主は私たちに、群を興すようにと礼拝の場所を備えて下さり、そこをベースに、さらに近隣（深圳）へと歩を進めるようにと、強く導いておられました。その為には、法人格を持った教会としても整えるようにと、示され、クリスチャン弁護士の助けも得て、組織化が進められていきま



した。2010年2月3日、正式に香港政庁から非営利団体としての認可が下りました。正式名は「香港以馬内利日語国際基督教会」です。

今年の6月には創立5周年記念を捧げられるところまで、進んでくることが許されました。山あり谷ありの歩みでしたが、特に感謝であったことは、①海外で人の出入りが多い中でも、毎週20名前後で礼拝を捧げることが出来、求道者が決心に導かれ、洗礼を受けられたこと。②香港で救われた日本人夫婦を、香港の現地の教会と協力して、HK Wycliffe（香港ウィクリフ）を通じて、フィリピンへ聖書翻訳者として派遣出来たこと。③日本語の出来る香港や、大陸からの神学生を実習生として迎えられたこと。（大陸からの神学生は、香港で修士を終え、開拓教会を始められました。日本への宣教師と召されていた兄弟は、卒業後WECという団体を通じて、長浜に宣教師として派遣されました。）④2012年12月牧師館のスプリンクラーの事故という、考えられないような水害に出会いましたが、主はそれを用いて、深圳に集会の場所を与えてくださったことです。毎週2回ほど、香港と深圳とを出入りしながら、この地域における邦人ディアスポラ宣教に労させて頂いています。

この群れが、色々な角度でアジアの宣教のために用いられる教会として、主が益々お育てくださいますように、引き続きお祈りください。



フィリピン 安森ハル宣教奉仕者の報告

私は、沖縄で生まれ、幼少の頃に耳が聞こえなくなりました。当時は戦争中で、ろう学校へ通っても、きちんと学ぶことができない時代でした。1961年に、沖縄の大会にコリエル母娘宣教師が来られ、コリエル先生のメッセージを通して、イエス・キリストを信じる決心をし、1964年7月にバプテスマを受けました。その後、コリエル先生の勧めで、本部（埼玉県）で2年間炊事の奉仕をしました。

1967年8月に、同じ沖縄出身の山内佐代子姉と、最初は宮古島で伝道奉仕をさせて頂き、それから11月に共にフィリピンへ行きました。フィリピンでの働きは、ラゲーナろう学校の奉仕（ろうの子どもの教育や生活指導、炊事、コリエル先生の助手）でした。

1991年9月28日に、フィリピンのエドガルド・クラリト師と結婚し、サンパブロに在住しながら、サンパブロろう教会でエドガルド師と共に、奉仕しました。2007年3月20日に、エドガルド師が召天しましたが、その後も、私は、ろう教会を支え続けました。

さて、フィリピンには、ろうの人が多くいます。原因の一つは、両親がマラリヤなどの病気にかかったためです。当時は、ろうの人は耳が聞こえず、話もできないことで人間として扱われることなく、また、ろうの子どもを持つのは恥だと思ふ親がいて、その子どもを家畜小屋に隠すこともありました。

フィリピンへ行った頃、コリエル先生と一緒に、ろうの子どものいる家を探し回りました。それは、ろうの子どもにも、きちんと教育を受けさせるためでした。コリエル先生が、ある家に行き、ろうの子どもはいますかと聞きました。案内されたのは家畜小屋でした。コリエル先生はその子を、そのまま車に乗せて連れ出しました。子どもは長い間、体を洗っていないため、車の中は臭く、さらにアメリカ人であるコリエル先生を見てびっくりしたのか、ものすごい大声を出し、

暴れていました。そのような中で、私たちは、子どもを抱きしめて、学校まで行きました。そして、体を洗い、食事をあげて、それから、体の洗い方、食べ方、服の着替え方などの生活を教え、手話を教え、文法を教えていきました。

そして、十分に教育した後、聖書の学びをし、その中の何人かが伝道師になって教会を牧会したり、伝道するように成長していきました。また、立派な仕事に就けるようになり、その評判が広がって、ろうの子どもにも教育が必要だと、次々とろう学校ができるようになりました。

私は、現在のようにきちんとした聖書学校で学んだことはなく、英語もわかりませんでした。ただ、コリエル先生の勧めに従って45年フィリピンでのいろいろな奉仕をさせて頂きました。当時は、違う環境での生活のつらさで、何度か日本へ帰りたと思いました。しかし、長い間奉仕できたことは、主の守りと支えによるものでした。み言葉によって慰められることもたくさんありました。また、みなさまのお祈りにも支えられました。しかし、2013年9月に帰国し、10月31日の教会代議員総会において、宣教奉仕者としての奉仕を終えることになりました。現在は、旭川で余生を過ごさせて頂いております。神様と皆様に心より感謝しております。

前列右から二人目
安森ハル宣教奉仕者



2014年度 JOMA 総会のご案内

日時： 2014年4月22日(火) 13:30～15:30
会場： お茶の水クリスチャンセンター 415号室

総会プログラム

- 議案1： 2013年度事業報告
- 議案2： 2013年度決算報告
- 議案3： 2014年度役員改選
- 議案4： 2014年度事業計画
- 議案5： 2014年度予算案

JOMA 世界宣教セミナーのご案内

総会に先立ち、同日以下のように毎年恒例の世界宣教セミナーと、加盟団体昼食会を行います。どうぞこちらにもご参加下さい。

11:00～12:00 世界宣教セミナー 「カイロスコースとは」

創世記から黙示録までを通して現された宣教の神のみ心を学ぶカイロスコースは、世界50ヶ国、20を超える言語で実施され、各国の教会、何万人もの信徒を、大宣教命令実行のために立ち上がらせています。日本では福岡、大阪等で行われ、東京でも5月に開講します。今回は、カイロスの内容・実施方法等を紹介していただきます。

講師：山下光宣教師

(ワールドアウトリーチ ボランティア
スタッフ、カイロス日本ナショナル
コーディネーター)

(詳細は <http://joma.hope8.net/> 参照)

12:30-13:30 昼食をとりながら、 各加盟団体の報告

お願い： 加盟団体の会費は、総会前日までに必ず、以下の郵便振替口座へお振込み下さいますよう、お願いいたします。(総会当日の現金での納入は、受け付けておりません。)

口座名義： 海外宣教連絡協力会
口座番号： 00160-7-106631

世界宣教関係イベント情報

◆ SLIM 14 カンファレンス

(* SLIM : Servant Leaders in Ministry)
日程：3月27日～30日
場所：イタリア、サン・ペレグリーノ・テルメ
テーマ：「愛を伝える人」
～キリストを身にまとして～
<http://www.slimconference.org/>

◆ 世界福音同盟 宣教委員会 (WEA-MC)

グローバル・コンサルテーション
日程：5月12日～16日
場所：トルコ
テーマ：“Gospel - Church - Mission”
<http://mc.worldea.org/>

◆ 日本ローザンヌ委員会シンポジウム

「包括的な日本宣教を考える」シリーズ第3回
日程：6月7日
場所：お茶の水クリスチャンセンター
8階チャペル
テーマ：「キリスト教会を謙遜と誠実と質素に
呼び戻す」
<http://lausanne-japan.org>

◆ 第31回 ヨーロッパ・キリスト者の集い

日程：7月30日～8月3日
場所：ベルギー、レティー
テーマ：「伝道—私たちキリスト者の使命」
http://brussels-nihongokyokai.blogspot.jp/p/blog-page_16.html

◆ 第5回 東海岸日本語教会

合同ファミリーキャンプ
日程：8月30日～9月1日
場所：ニューヨーク
<http://www.jcfny.org/>

■■■ JOMA 通信 ■■■

発行所：JOMA (海外宣教連絡協力会)
住所：〒101-0062 東京都千代田区
神田駿河台 2-1 OCCビル内 6F
メール：jomaoffice@yahoo.co.jp
(電話はありません)
発行者：松崎ひかり
編集者：松沢実喜男
(レイアウト：LLP HopeWorks)
ホームページ：<http://joma.hope8.net/>
郵便振替(口座名義：海外宣教連絡協力会
口座番号：00160-7-106631)